

Corporate  
Social  
Responsibility  
CSR報告書 2010

豊かな環境、未来を創造する



## 経営理念

### 社会との 共感

高い品質の建設サービスを通じ、顧客や取引先、株主や地域社会に貢献し、信頼されることで持続的に発展し続ける企業を目指します。

### 経営理念

### 豊かな 環境の創造

豊かな自然環境を後世に伝えていくことが社会生活、経済活動の礎であることを強く認識し、地球環境に配慮したモノづくりを通じて、安全で快適な生活空間と豊かな社会環境を創造します。

### 進取の 精神の実践

顧客や社会のニーズに対し、実直に応えるとともに、企業を取り巻く社会の変化に対して常に進取の気概を持って挑戦します。

## 報告書発行にあたって

### ● 発行目的

2007年まで発行していた、「環境・社会活動報告書」を2008年からは「CSR報告書」として発刊しています。本報告書は、社内外の利害関係者の皆様へ、当社の環境および社会活動を含むCSR活動全般の推進状況をお知らせする目的で作成しています。

### ● 参考ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)」  
GRI「サステナビリティレポーティングガイドライン(第3版)」

### ● 対象期間

2009年度(2009年4月1日~2010年3月31日)  
当該年度以外の内容も一部掲載しています。

### ● 対象範囲

原則として、五洋建設株式会社を対象にしています。

### ● 発行

五洋建設株式会社

### ● 担当

CSR推進室

### ● 発行時期

前回:2009年10月、今回:2010年9月、  
次回:2011年9月予定

## 中期ビジョン

### 海と大地の “創造企業”

私たちは、臨海部ナンバーワン企業として魅力ある空間創造を究め、提案型企業として顧客満足と社会貢献を追求します。

### 確かな品質を約束する “こだわり企業”

私たちは、確かな技術に裏づけされた高い品質と安全なモノづくりを通じて、顧客と社会の信頼を築きます。

### 子供たちに豊かな環境を遺す “未来企業”

私たちは、企業活動を通じて良質で豊かな環境を創造し、次世代に確かな夢を、希望を、可能性を伝えます。

# 五洋建設 CSR報告書 2010

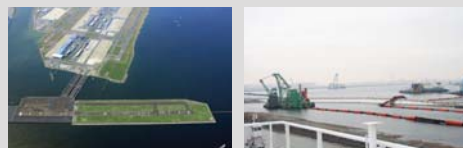
## Contents

3 トップメッセージ

### 特集 事業を通じた五洋建設の取り組み

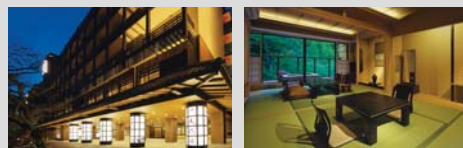
## 5 1 「社会の期待に 応えること」

羽田空港再拡張D滑走路



## 7 2 「お客様とともに 造りあげること」

箱根湯本温泉「天成園」



### 社会活動報告

9 お客様とともに

CLOSE UP

広島東洋カープオーナー  
松田 元 様にインタビュー



12 株主とともに

13 協力会社とともに

14 地域社会とともに

17 社員とともに

### 環境活動報告

19 地球環境を守るために

23 環境に配慮した技術

25 廃棄物・資源の適正管理

27 環境保全の取り組み

### マネジメント報告

29 信頼される企業を目指して

33 2009年度 主な完成工事の紹介／会社概要

#### ● 編集方針

当社が社会全体の持続的発展に貢献し、企業理念に基づく誠実な経営活動を推進・展開していることを、すべてのステークホルダーの皆様にも少しでもわかりやすく情報提供できるように心がけています。掲載する内容や報告書の方向性などについては、定期的開催するCSR推進委員会での意見を踏まえて、毎年見直しを図っています。CSR報告書2010では、お客様の声や社員の声などを掲載し、当社の活動をよりご理解いただけるよう工夫しています。

# サステイナブルな社会のために

## CSR活動のさらなる推進にあたって

今、「社会、地球が持続可能であるためには企業がどうあるべきか」について、その認識、姿勢がますます問われてきており、企業もサステイナブルな社会の実現に向けて、さまざまな取り組みを進めています。これからの企業は、未来の社会にどのような価値を提供できるかによって、その存在意義が問われます。

当社グループは、本業である建設事業を通じて社会への貢献を果たしていく中、役職員一人ひとりが常に「企業の社会的責任とは何であるか」を今一度念頭に置き、日常業務を実践していくことが大切だと認識しています。私たちの不断の取り組みが地道なCSR活動として、やがては企業の評価を高めることとなり、結果的に業績向上につながっていくものと考えます。

当社グループは、モノづくりの企業集団として、「良質な社会インフラの建設こそが最大の社会貢献」ととらえ、経営理念、中期ビジョン、CSR基本方針のもと、CSRの具体的な実践活動に取り組んでいます。

これからも引き続きCSRの根幹を成すコンプライアンスの徹底はもとより、経営理念、中期ビジョンに掲げるCSRを常に

意識した誠実な企業活動を実践するとともに、グループ全体でリスクマネジメントを推進し、実効ある内部統制システムの運用を徹底していきます。

## 豊かな自然環境を後世に伝えていくために

私たち建設産業は社会インフラ整備の担い手として、自然を相手にする、地球環境問題に大きく関わる産業です。その一員である当社グループも事業活動を通して、豊かな自然環境を後世に伝えていくために、環境活動指針をもとに、環境マネジメントシステムの運用を推進し、建設に伴うライフサイクルの各段階に応じて、環境保全・資源循環・公害防止への継続した取り組みを行っています。

今年には国連の定めた「生物多様性年」であり、10月には名古屋でCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)が開催されます。

環境問題の中でも、ますます顕在化している地球温暖化の影響など、自然環境の悪化に伴い、生物の多様性がこれまでにない早さで刻一刻と失われつつあります。生物多様性は私たちの暮らしや企業活動においても、さまざまな場面に深く関わっており、それを利用しながら保護していく、すな

## CSR基本方針

五洋建設グループは、「良質な社会インフラの建設こそが最大の社会貢献」と考え、安全、環境への配慮と技術に裏打ちされた確かな品質の提供を通じて、株主、顧客、取引先、従業員のみなならず、地域社会にとって魅力ある企業を目指します。

### 1 誠実な企業活動

事業活動においては、法令を遵守し、社会的規範・倫理を尊重することはもとより、常に誠実な姿勢で行動します。

### 2 環境・自然との共生

- 環境に配慮したモノづくりと環境技術の開発に努め、地球環境の保全に貢献します。
- ハード・ソフト両面の防災技術の開発に努め、災害に強い生活空間の建設に取り組めます。
- 危急時には迅速な支援活動を行います。

### 3 人間尊重

- 従業員の個性が尊重され、能力が十分に発揮できる働き甲斐のある職場環境の実現に努めます。
- 従業員のみならず、関係するすべての人々の人権と多様性を尊重します。

### 4 社会とのコミュニケーション

広くステークホルダー(株主、顧客、取引先、従業員、地域社会等)とのコミュニケーションを心がけるとともに、適切で公正な情報を開示し、説明責任を果たします。

わち持続可能な取り組みを行っていく必要があります。当社グループでも身近な臨海エリアで、サンゴの保全・育成・幼生の着生促進技術開発、生物共生護岸の開発、絶滅危惧種コアジサシ産卵のための環境整備などを進めています。引き続きモニタリング活動を行いながら、生物多様性保全に取り組んでいきます。

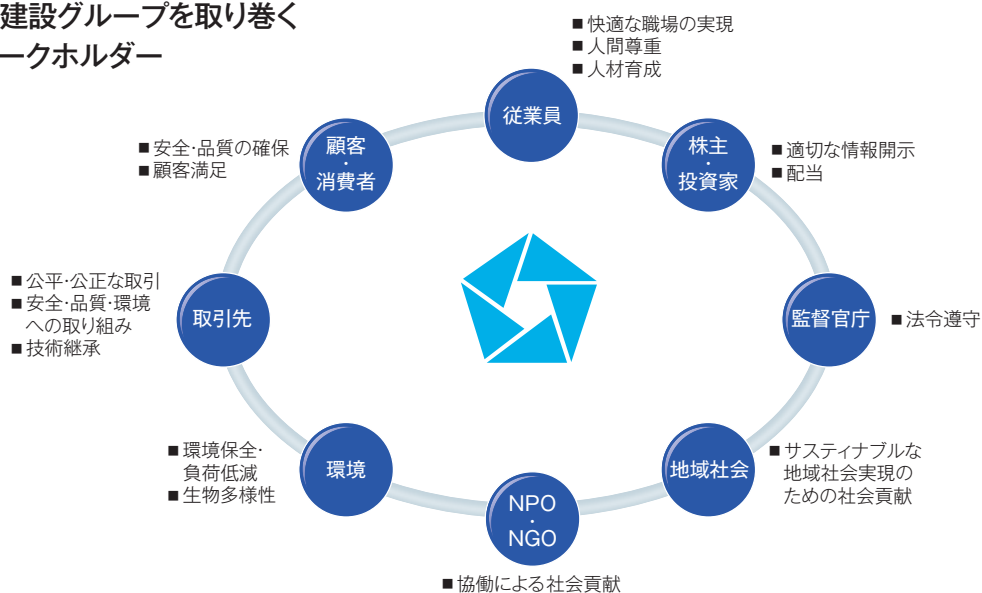
本報告書は、CSRに関する2009年度の活動実績と2010年度の活動方針、環境および社会的取り組み活動をまとめたものです。当社グループは、これからも社会的使命とその責任を果たしながらCSR活動に真摯に取り組む、社会との共感、魅力あるCSR企業を目指してまいります。ステークホルダーの皆様からの忌憚のないご意見、ご指導を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

2010年9月  
代表取締役社長

**村重 芳雄**



### 五洋建設グループを取り巻く ステークホルダー



# 1 「社会の期待に応えること」

## 羽田空港再拡張D滑走路

東京国際空港（羽田空港）は、2010年10月の供用を目指して、4本目の滑走路（D滑走路）を建設しました。全長3,120mの空港島は、多摩川の流れを妨げないように、日本では初となる埋立と栈橋を組み合わせたハイブリッド工法を採用。多摩川の河口域を栈橋工法とし、それ以外を埋立法で施工しています。

D滑走路の完成により、年間の発着能力を30.3万回（2007年9月1日時点）から40.7万回に増強し、多様な路線網の形成などで利用者の利便性が向上します。さらに将来の国内航空需要に対する発着枠を確保しつつ、国際線定期便の受け入れが可能となります。

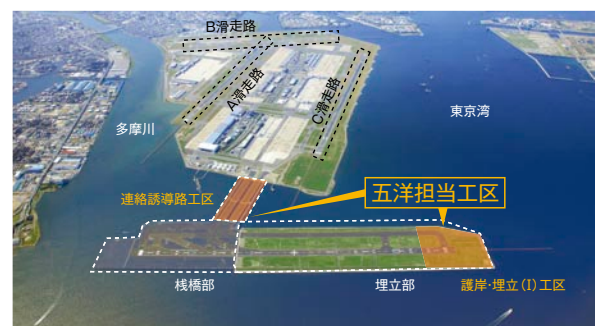
## 環境に配慮した埋立工事

当社は、空港島の先端部分の護岸・埋立部518mと連絡誘導路を担当しました。空港島の高さは水面から最大17mの高さに盛土し、山砂等の量は当社の工区だけで1,300万m<sup>3</sup>にもなります。護岸には傾斜堤構造を採用しているため、直立護岸に比べて多様な生物生息の環境を創出しています。水面近くには溝のある環境共生型消波ブロックを敷設し、すでに藻の定着が見られていることから、今後はカニ類やメバルといった小魚の生育空間となることも期待されています。

また、埋立土には、沈下抑制や護岸の安定性を向上させるために、山砂よりも軽い管中混合固化処理土を採用。これは、第一航路浚渫や床掘で発生した海底の土に

セメントを混合し、リサイクルして使用しました。

施工中には、環境モニタリングを実施して、土砂による水質の濁りを監視し、水生生物と鳥類へ影響を及ぼさないように配慮しました。



D滑走路施工状況



管中混合固化処理打設状況



環境共生型消波ブロック



埋立状況

写真提供:羽田再拡張D滑走路JV  
撮影日:2010年9月

### 施工担当者 より

本工事の特殊性は供用空港制限下で、かつ船舶輻輳<sup>ふくそう</sup>海域における年中無休24時間の大規模・急速施工です。当工区は、進入灯橋梁を含む埋立部の東端の施工を担当し、2007年8月に本格的に工事を開始しましたが、幸いにして台風等による悪天候の影響も比較的少なく工事を計画どおり進めることができました。約3年間、厳しい施工条件のため苦労もありましたが、社員一丸となって創意工夫を加え継続的に工程短縮を追求するとともに、環境負荷の低減にも積極的に取り組み、順調に竣工を迎えることができました。

護岸・埋立(I)工区  
副所長  
野谷 斎



### 施工担当者 より

着工当初より当工区の施工に携わり、事前の調査工をはじめ護岸部の地盤改良(CDM)や上部コンクリート工、埋立部の管中混合固化処理工など、埋立工事全般における多様な工種を担当しました。CDM・管中混合固化処理工はともに24時間連続施工で、土日(もちろん正月)も休むことなく施工しました。管中混合固化処理工では、周辺海域への濁りの影響を極力抑えるよう施工方法を十分検討し、モニタリングを実施しつつ慎重に工事を進め、環境への影響に配慮した施工を行いました。

護岸・埋立(I)工区  
工事主任  
渡邊 雅哉



# 2 「お客様とともに 造りあげること」

## 箱根湯本温泉「天成園」

箱根湯本温泉の老舗旅館「天成園」が、2009年12月にグランドオープンしました。施設の老朽化に伴い、本館などの建物を解体して、鉄骨造7階建て、延床面積約1万3,600m<sup>2</sup>、客室数は旧施設の倍以上の243室の宿泊施設に新築しました。

文人墨客が愛した昔ながらの美しい景色と伝統を受け継いだ名湯を残しつつ、箱根湯本地区では初の23時間営業の日帰り利用を導入し、宿泊機能が高度に融合した施設へと生まれ変わりました。また、屋上には解放感あふれる露天風呂を配し、石風呂や寝湯、ジェットバス、貸切風呂など多様な入浴施設を揃えている他、飲食、ウェルネスなどの分野でも充実した癒しの空間を提供しています。イベント観賞なども取り入れ、利用者が好みに応じて気軽に過ごせる癒しの空間を創出しています。

## 景観を守りながらの施工

天成園は、山と川に挟まれた自然豊かな場所にあります。そのため、周囲にある紅葉や桜などを残したいという要望があり、極力作業スペースを狭くして行うことになりました。狭いスペースでの施工は、通常よりも安全性と効率性を高める工夫が必要でしたが、全作業員が施工条件を把握するようにして一丸となって取り組みました。

また、敷地内には、与謝野晶子が風情をひいきにして歌を詠んだことで知られる「玉簾(たますだれ)の滝」や箱根神社の分宮「玉簾神社」といった観光資源があり、建て替え工事中も観光客を受け入れるよう地元からの要請がありました。休日には500人の観光客が訪れましたが、観光客用の通路を特設し、誘導員を増員して観光客の安全確保に細

心の注意を払いました。

難しい施工条件や設計変更に対応し、無事故・無災害、そして当初よりも1ヵ月早く建物を引き渡すことができました。



観光客用に設けた通路







### 施工担当者 より

施工者として、オーナーが提案する「おもてなしの心」を共有することが大切だと思い、私たちも魅力ある施設を完成できるよう心がけていました。

この施設に関わるさまざまな相手の立場に立って、何をどうすればよいかを考えながら、現場内の調整を図っていました。

みんなが一つの目標に向かって、より強いチームワークを作るために、普段よりコミュニケーションを大切に、要請や意見を気軽に言ってもらえるようにしていました。また、施工者として精度の高い建物を造るために、私たちの要望もはっきり伝えるようにしています。

これからもみなさんの期待に応えられる建物を造っていきたくと思っています。



工事所長  
隈元 洋一

### お客様 より

これまで温泉旅館で提供されていた「おもてなし」の仕組みを変え、利用者が好みに応じて気軽に過ごせるような新しい楽しみ方を提供するために、全館全棟を新築いたしました。施設の建設にあたっては、定例会議に出席し、五洋建設をはじめ施工担当者と一緒に仕様を決定していきました。工事の期間が短いうえ、厳しい要求も出しましたが、関係者の方々には限られた中で柔軟に対応していただいたと思っています。

施工だけでなく環境にも配慮して努力してくださり、高い使命感と心意気を感じました。五洋建設とは良いパートナー関係を築き、仕事ができたと思っています。



株式会社天成園  
代表取締役 目黒 俊男 様

# お客様とともに

五洋建設は、高品質の建設サービスを提供するために、品質活動指針に基づいたマネジメントシステムを運用し、顧客満足度の向上に努めています。

## 品質活動指針

- 柔軟な発想や創造力を発揮し、付加価値の高い製品とサービスを提供する。
- 工事施工に際しては、適切な施工管理体制を確立する。
- 社員の職務遂行能力の向上を図り、品質確保技術の維持向上に努める。

## 品質マネジメントシステムの運用状況

### 外部審査

実施日：2009年9月7日～11日  
 審査登録機関：(株)マネジメントシステム評価センター  
 審査結果：改善指摘……………0件  
           観察事項……………12件  
           充実点……………9件

### 内部審査の実施状況

実施日：2009年4月1日～2010年3月31日  
 審査結果：是正要求……………6件  
           指導観察事項……………333件  
           文書化に関する指摘……………77件  
           製品実現に関する指摘……………132件  
           測定、分析及び改善に関する指摘……………55件  
 継続的なシステムの改善と効率的で効果的な業務を推進するための手段としてマネジメントシステムを運用していきます。

## 品質教育

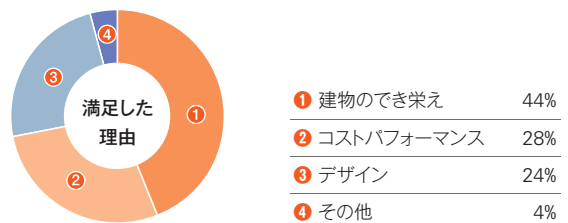
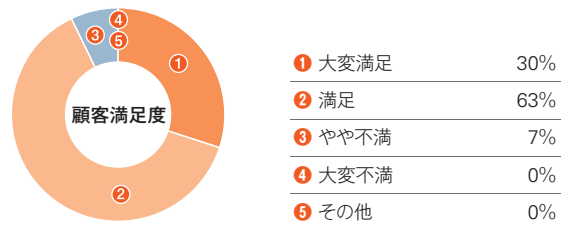
品質・環境マネジメントシステムに係る全社員教育を、2009年10月28日～11月18日にe-ラーニングを活用して実施しました。2009年度の参加率は85.0%でした。

## 顧客満足への取り組み

当社では民間工事において、一層のサービス向上を図ることを目的として、お客様アンケートを実施しています。私たちが施工した建物や、工事担当社員、営業担当社員について、2009年度も多くのお客様から「大変満足」あるいは「満足」との評価をいただいています。満足いただいた理由としては、建物のでき栄えや

デザイン、施工担当者の工事の工程管理、営業担当者のコミュニケーションなどが挙げられています。

### 顧客満足度アンケート調査(民間工事)

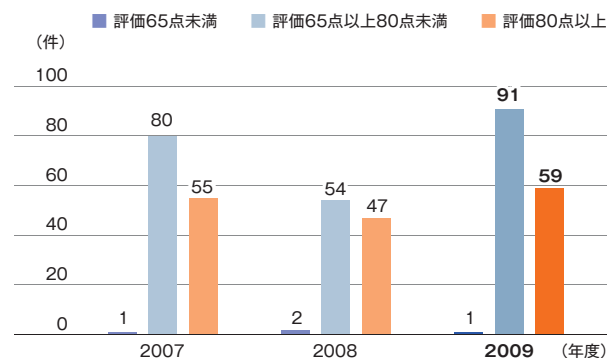


一方、公共工事においては、発注者から高い評価が得られた80点以上の工事は、件数では昨年度と比較して12件増加しました。

工事成績評価は、集計・分析し、高評価、低評価されている項目を把握します。取りまとめられた分析結果は、各支店、工事事務所へ会議や研修を通じて周知しています。特に工事成績の中で低評価だった項目については、その原因と対策を明確にした資料を作成して、全社を挙げて改善できるようにし、より一層、顧客満足度の向上を目指しています。

今後も良質な製品の提供は当然のことながら、安全衛生環境に配慮した施工に努めていきます。

### 工事成績評価 評価別工事件数の推移(公共工事)



# CLOSE UP —クローズアップ—

広島東洋カープオーナー

## 松田 はじめ 元 様に インタビュー

2009年春、当社が施工した、広島東洋カープが本拠地としている「MAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島」が完成しました。

昨年の年間の観客動員数は、広島市の人口をはるかに上回る約181万人を超え、空前の盛り上がりとなりました。また、観客の層も幅広い世代が訪れるようになったといいます。

「どうしたら愛される球場になるのか？」

「球場を通じた社会貢献とか何か？」

球団のオーナーである株式会社広島東洋カープの代表取締役社長 松田元様にお話をうかがいました。



### 誇れる球場をつくりたい

新球場の企画が立ち上がった時、「地域の方々やファンが誇れる球場をつくりたい」と思いました。野球の魅力を十分に感じられ、観客が自由に楽しく応援できる場を実現したい。そのために、私を含め関係者が日本の球場のみならず、アメリカの球場を視察し、地域性等も照らし合わせ、カープ球団としても市にオンリーワンの球場となるように提案しました。

### 野球の楽しさを第一に。次は球場の楽しさを

新球場には、ユニークで豊富な種類の座席があります。例えば「砂かぶり席」ではダイナミックなプレーを観戦でき、「パーティーフロア」では大人数で食事を楽しみながら試合を見ていただけます。また、コンコースを歩いて「球場自

体”を楽しんでいる方が多く、試合が始まっても席に着く人が少ないんですよ。

ファンが楽しめる球場というのは、カープの選手にとっても「自慢できる球場」になります。他球団からも褒めていただいていますから、選手も広島でプレーすることにさらに自信が付き、モチベーションが上がりますね。

### 家族が集まってひとときを過ごす場所

新球場が変わってから、世代を超えて多くの方々に来場していただいています。「おじいちゃんと孫」という組み合わせも増えました。私の知る範囲では、5世代の家族が集まられたことがありましたよ。家族の誕生日会を兼ねて観戦されたようです。

このように、新球場は家族が集まり、ひとときを過ごす場所という存在に

なっています。私は、単なる競技場ではなく、「家族の絆」「地域の絆」「友達の絆」を強くする場所としてあってほしいと思っています。

### 熱い想いを感じる五洋建設

新球場の施工期間は1年6か月という非常に短い期間でしたが、五洋建設や協力会社の方々には「良い球場をつくりたい」という気持ちで一致団結し、大きな事故も起こすことなく、計画通りに球場を完成していただきました。球場への熱い想いと責任感を感じましたね。

また、どんな要求にも丁寧に、そして真摯に対応してくれたのが印象的です。五洋建設は広島県発祥の会社であり、私も親しみを持っていました。だから今回の出会いは運命的な縁だったようにも思います。



# お客様とともに

## 良質な建設物の提供

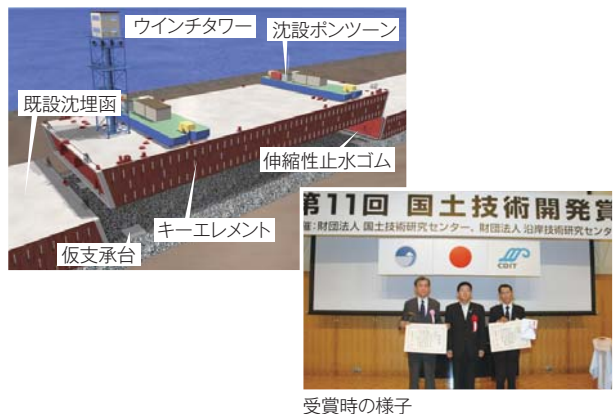
### ■ 国土技術開発賞の最優秀賞を受賞

#### 沈埋トンネルの最終継手を省略するキーエレメント工法

当社の開発技術である「キーエレメント工法」が、第11回国土技術開発賞の最優秀賞(国土交通大臣表彰)を受賞しました。当社はこれまでに優秀賞2件、入選6件を受賞しており、最優秀賞の受賞は今回が初めてです。

受賞対象となった「キーエレメント工法」は、海底トンネルの一つである沈埋トンネルの最終継手部分を省略する技術です。従来工法と比べ、最終継手の製作・沈設工が省略できるため大幅なコスト削減と工期短縮を実現します。また、沈設の際に大型起重機船などの設備が不要なため、航路の専有面積が縮小でき、空港制限区域においても施工ができます。さらに、潜水士の作業も軽減できることから、施工の安全性が向上します。

当社はこれまでに、大阪湾の夢洲と咲洲を結ぶ「夢咲トンネル」、那覇空港と那覇市街地をつなぐ「那覇港臨港道路空港線」、北九州市の若松地区と戸畑地区をつなぐ「新若戸道路」で施工実績があります。



受賞時の様子

### ■ 当社ブランド技術を採用した海上工事

#### 海水を透過させるスリット(切れ目)を用いたケーソン

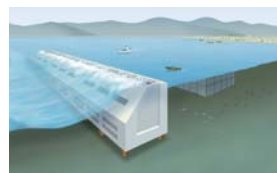
厳しい波浪条件に対応する突堤・離岸堤とするため、海水を透過させるスリット(切れ目)を設けたケーソンを用いてVHS工法を開発しました。

富山県黒部市の<sup>いくじはな</sup>生地鼻では、2002年~2004年に、侵食対策として突堤の整備が計画され、「VHS工法」が採用されました。

2008年、冬型低気圧による高波浪が発生し、海岸沿いの民家が甚大な被害を受けましたが、1号堤と3号堤の背後地では被害が抑えられました。このことによって地元の強い要望により、1号堤の北側に0号堤、南側に2号堤の整備が決定し、2009年に完成しました。

また、VHS工法をさらに進化させたS-VHS工法も開発し、2008年に建設技術審査証明書(建技審証第0809号)を取得しました。

現在、0号堤の北側に、S-VHS工法にて離岸堤を建設中です。



S-VHS工法



VHS工法にて完成した突堤

## VOICE



### 技術開発を通じ、良質な社会資本整備に貢献

建設業界は厳しい技術競争時代を迎えており、今まで以上に安全で効率的・効果的な社会資本の整備に貢献できる技術が求められています。例えば、地震防災など安全・安心な社会に貢献できる技術、国際競争力を強化する技術、既存施設の維持・更新技術、海洋立国を推進するための技術および地球温暖化対策を含む環境へ配慮した技術などです。

このような社会的情勢を踏まえて、上記の技術分野などに関する新しい技術を積極的に開発することにより、良質な社会資本整備に貢献する所存です。

技術研究所 所長 三藤 正明

# 株主とともに

株主・投資家・マスメディアとのコミュニケーションは、CSR活動の大きな柱です。あらゆるステークホルダーの皆様へ経営姿勢や企業の方向性をご理解いただけるよう、積極的な広報活動を展開しています。

## 情報開示の考え方

経営に関するニュースは、証券取引所の規定以外のものでも株主・投資家の皆様にとって有益な情報と判断されるものについては、積極的に開示しています。

### ■ 高い評価を得ているIR活動

当社ホームページには「株主・投資家の皆様へ」というIRサイトを設けており、証券取引所への開示文書のみならず、株主通信・ファクトブック・アニュアルレポート等を掲載し、当社を多角的に知っていただけるよう努めています。2009年度は日興アイ・アールが発表した「全上場企業HP充実度ランキング」において建設部門で2年連続1位に輝くなど外部から高い評価を得ています。証券アナリスト・機関投資家への適切な情報開示も積極的に行っており、第1四半期、第3四半期の電話会議に加え、第2四半期および通期決算時に開催する説明会では毎回約50名の方にご参加いただき、経営状況をご確認いただいています。その他、年間約70回のOne on Oneミーティングも開催しており、当社のIRは高い評価を得ています。



### ■ マスメディアとのコミュニケーション

日頃からさまざまな報道機関とのコミュニケーションを通じた広報活動を行っています。記者の取材やマスメディアからの各種アンケートなどに対しては、説明責任を果たすという側面と、世論形成の一端を担う活動であるという認識のもと積極的に応じています。

その他新技術の報道発表や技術展覧会への出展なども積極的に行っており、これらについては「ニュースリリース」や「ソリューション・技術」のサイトでご確認いただけます。



ソリューション・技術紹介のサイト

## 株主の状況 (2010年3月末現在)

発行可能株式総数 ..... 599,135,000 株  
 発行済株式の総数 ..... 245,763,910 株  
 株主数 ..... 45,179 名

### ■ 所有者別分布状況



## 配当について

当社は、将来に備え経営基盤の強化を図るとともに、経営環境や業績などを勘案し、可能な範囲で、株主の皆様に対して長期的かつ安定的に配当することを基本方針としています。また、内部留保につきましては、技術開発や設備投資など企業価値向上のための投資等に活用し、将来の事業発展を通じて、株主の皆様へ還元させていただくこととしています。

## 株主とのコミュニケーション

株主総会は株主の皆様との対話の場であることを認識し、大型ディスプレイを活用した業績の説明や、当期に竣工した主な物件の紹介など、積極的な情報提供を心がけています。また、毎年6月と12月にはその期のトピックスや業績の推移などをわかりやすく説明した株主通信を株主の皆様へお送りして、当社へのご理解を深めていただいています。



コミュニケーションツール

# 協力会社とともに

五洋建設は、人間尊重を基本姿勢として、安全最優先の施工に努めています。早くからCOHSMS認定を取得し、五洋建設労働安全衛生マネジメントシステム(PENTA-COHSMS)による継続的な安全衛生管理を実施しています。

## 労働安全衛生

### 安全衛生の基本姿勢

当社の安全に対する基本姿勢は人間尊重であり、安全最優先の施工こそ、人道的かつ社会的な責務です。社員ならびに協力会社は、労働災害の防止はもとより、公害ならびに公衆災害を含めたすべての災害防止に全力を傾注し、職場の安全と健康を確保するとともに、社会的信用の確立を期さなければならないという基本姿勢のもと、安全衛生に取り組んでいます。

#### 安全衛生活動指針

- 労働災害の防止はもとより公衆災害を含めたすべての災害防止に努める。
- 職業性疾病を防止するとともに、心と体の健康づくりを推進し、快適な職場環境を形成する。
- 社員および協力会社の連携のもと安全衛生活動を実施し、水準の向上を目指す。

### PENTA-COHSMSの実施

当社は、2004年10月に全社で「COHSMS\*評価証」の交付を建設業労働災害防止協会より受け、五洋建設労働安全衛生マネジメントシステム(PENTA-COHSMS)として統一運用を行っています。また2008年10月にはCOHSMS評価証から認定への移行に伴い、COHSMS認定の一括認定(全社認定)を取得し、継続した運用を進めています。今後は、認定基準をもとに、より効果的なシステムに改善し、協力会社とともにシステムの実施・運用を確実に行うことで安全衛生管理水準の向上させ、労働災害の減少を図ります。

※COHSMS:建設業労働安全衛生マネジメントシステム

### 安全技術の伝承

「安全に王道はない」といわれているように、基本に忠実な安全衛生活動を継続することが大切です。当社では社員に対する安全技術の伝承にも力点を置いており、法令遵守はもとより、安全で安心な安全衛生管理が実践できるよう、教育メニューや資料の見直しを行い、安全衛生教育を継続的に実施しています。また、以前から社員に対してはの職種別研修に加えて、階層別研修でも安全教育も実施しています。さらに、各支店では協力会社とのコミュニケーションも継続して行っており、トップセミナーや職長教育などを行っています。

#### 2009年度安全衛生教育の実施状況

種別	実施回数	受講者数
職種別研修	69回	216人
階層別教育	6回	468人
システム教育	58回	730人
協力会社研修	13回	466人

### 安全成績

2009年度は安全帯不使用者退場制度と3・3・3運動を展開して特定災害(墜落・転落災害、重機・クレーン災害)の防止を図るとともに、現場における携帯電話使用ルールの遵守を徹底して公衆災害の再発防止に努め、災害は減少しました。また、協力会社を含めたリスクアセスメントを実施・運用して労働・公衆災害の防止に努めています。



## VOICE



### 「事故防止」に対する熱心な姿勢を感じます

五洋建設とは長きにわたりお仕事をさせていただいていますが、安全衛生活動への取り組みは業界でもトップクラスにあると思います。また、「事故防止」に対する熱心な姿勢も感じられます。

建設現場は、予期せぬ危険が潜んでいます。事故が発生したとしても、未然に防ぐ取り組みを一生懸命行っているのといないのでは、被害の程度に大きな差が出ます。

今後も、五洋建設の安全への方針を理解し、「一緒に働くメンバーに絶対にケガをさせない」という信念をもって、事故予防に万全を期していきたいと思います。

五洋建設労働安全協議会連合会 会長 株式会社野本建設 代表取締役 野本 信男 様

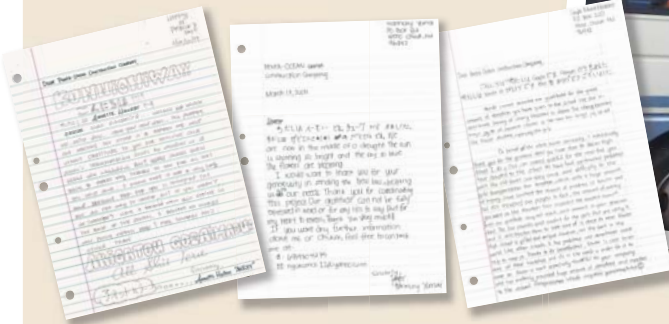
# 地域社会とともに

社会貢献活動・環境保全活動を通じた地域の皆様との交流を大切にしています。  
2009年度の活動の一部をご紹介します。

## 地域貢献活動

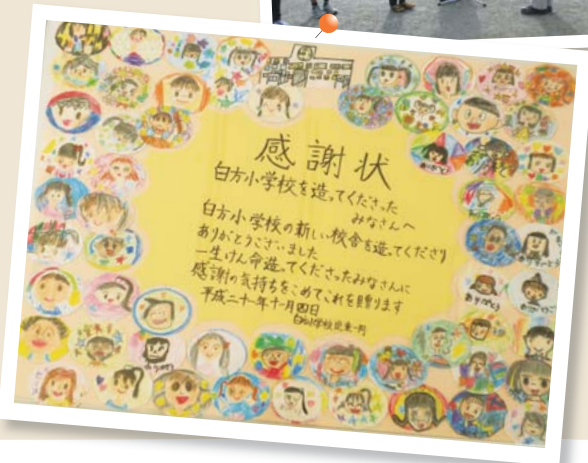
### ミクロネシア共和国の高校にスクールバスを寄贈

ミクロネシア共和国のチューク州ザビエル高校のスクールバスが老朽化し、丘の上に位置する学校と学生の住む麓の寄宿舎の送迎が困難な状況に陥っている情報を受けて、日本から通学用のバス1台を調達し、寄贈しました。これにより、「学生の安全な通学が確保された」と学校関係者から感謝のお言葉をいただきました。後日、学生から日本語を交えたお礼のお手紙をいただきました。



### 白方小学校の生徒より感謝状を授与

茨城県東海村に新しく建設された白方小学校の完成を記念して、生徒たちによる感謝の会を開催していただき、手づくりの感謝状をいただきました。建設中は、工事の様子がわかりやすいように当社社員による手づくりの壁新聞を毎月作成し、職員室前の廊下や仮囲いに掲示しました。



### 港の役割と港湾工事を紹介

岩手県宮古市のリアスハーバー宮古で、みなとウォッチングを開催しました。

これは宮古港の役割と港湾工事の果たしている役割について地域の方々の理解を深めてもらうことを目的としています。宮古市内および近郊の在住の小学生とその保護者の方々125名にご参加いただき、「自分たちの住んでいる町が防波堤などによって守られていることを実感できました」「建設業を身近に感じることができました」「作業船を近くで見ると迫りに圧倒されました」など感想をいただきました。



模擬水槽による津波疑似体験の様子

# 地域社会とともに

## 環境活動

### 海の森植樹会に参加

中央防波堤内側埋立地海の森公園予定地(東京都江東区)で、東京都港湾局主催による「海の森植樹会」が開催され、当社は、クロマツ、ケヤキ他5種類、約100本の苗木の植樹を行いました。



### 東京バードフェスティバルに参加

東京都大田区の臨海部にある東京港野鳥公園にて「東京バードフェスティバル2009」が開催されました。

今回で6回目の参加となる当社は、環境創造技術(干潟造成やアマモ場造成等)に関するパネル展示をはじめ、海の生物に直接触れ合うことができるタッチプール、磯場やアマモ場を再現した水槽を設置しました。伊豆諸島の現場から送ったサザエやアワビの周りには多くの親子連れが集まり、興味深く観察され、社員との間に「こんな立派なサザエを見るのは初めて!」「アワビは何を食べているの?」「どういところ棲むの?」などの質問が活発に交わされました。



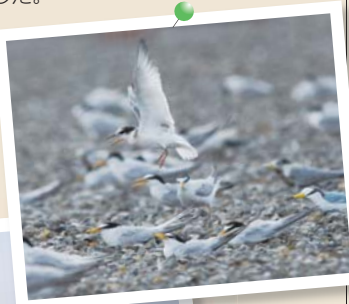
### リトルターン・プロジェクトに協力

当社は、絶滅危惧種の渡り鳥「コアジサシ」の繁殖場所を保全・創出することを目的としたNPO法人リトルターン・プロジェクトの活動に協力しています。

コアジサシは貝殻片を集めて巣を作る性質があります。このため、下水処理場屋上に敷かれた砂利等の上にボランティアの手で貝殻を散布しますが、この貝殻(1,200袋購入)を運搬するために11トントラックを提供しました。なお、昨年貝殻を散布した場所ではコアジサシの営巣が顕著に確認されました。



NPO法人リトルターン・プロジェクト  
URL: <http://www.littletern.net/>



撮影:大塚 豊



貝殻散布後の様子

### 小学生にアマモ場造成事業を紹介

当社が施工したアマモ播種工(香川県発注)の事業概要から施工状況、アマモの発芽状況を紹介しました。地元小学生26名を対象にアマモが、海の水質浄化や漁業生産効果など海で果たす重要性について学んでもうおうと開催したもので、参加した小学生からは「アマモなどの水産生物の生育を助けるために何をしていますか?」「播種したアマモはその後どうなったの?」など活発な質問がありました。





## 次世代育成

### 技術研究所に地元小学生対象を招いて見学会を開催

技術研究所(栃木県那須塩原市)に西那須野町立大山小学校3年生102名を招いて見学会を開催しました。この見学会は11月18日の「土木の日」にちなみ、毎年行っているもので、これまでに15回開催しています。

見学会後の質疑応答では、「波はどうしてできるの?」

「サンゴの卵はどれくらいの距離を流されるの?」という質問があがり、子どもたちにとって建設事業や環境問題について理解を深めていただいた一日となりました。



### 下水道トンネル工事にて現場見学会開催

東京都品川区の下水道トンネルの工事現場にて、小中学生とその保護者、および現場近隣の方々72名を対象に、親子見学会を開催しました。当日は、工事の技術と安全・環境の管理、建設廃棄物への取り組みなどを紹介し、建設業が取り組む環境問題について理解を深めていただきました。参加者からは「日常では見ることができない都市土木の一部を見せていただき、その必要性を認識しました」「貯留管が、どのような施設で、どの地域にあるのかまで知らなかったの、実際に見学し、大きさや設備を理解することができました」などの感想が寄せられました。



### インターンシップへの協力

国内外の工事事務所、営業所、支店、技術研究所などで、大学院生、大学生、高校生、専門学校生などにインターンシップを実施しました。期間中は社員とともにさまざまな作業を行い、社会の厳しさや緊張感、そして建設業の充実感を肌で感じていただきました。参加した学生さんからは、「建設現場で働くみなさんの生の声を聞くことができ、とても役に立ちました」「誰もが今の仕事に誇りを持っている姿が特に印象的でした」「自分の将来を考えるうえで、大変貴重な経験をさせていただきました」と感想が寄せられました。



その他の活動はホームページに掲載しています。

<http://www.penta-ocean.co.jp/company/csr/society/training.html>

## VOICE



### ボランティア活動で企業と市民をつなぐ

CSRの基本は、社会貢献活動を自主的に実践できる「人づくり」にあると私は考えています。企業が「人づくり」を目的に職場環境を整え、社員が社会貢献活動への一歩を踏み出すきっかけをつかんでもらうために行うのが当社が行っている「環境一般教育研修」だと思っています。私は、支店で「環境教育」を担当していますが、自ら実践した体験談は受講者が興味を持って聴いてくれ、反応が返ってくると感じています。そのため、市民活動の中で社員教育のネタを得ようと、企業と市民(社会)とのパイプ役を務めながらボランティアを始めましたが、親子現場見学会の開催や五洋建設自然観察指導員の養成などを実現していく中で、楽しみながら社会貢献活動を行う方法が少しずつ見えてきたような気がします。

東京土木支店 安全品質環境部 田邊 貞幸

# 社員とともに

五洋建設は、社員の人権、個性を尊重し、能力が十分に発揮できる働きやすい職場環境の実現に努めています。

## 働きがいのある職場環境の実現

### ■ 人事制度

当社では、社員一人ひとりの能力向上を図るとともに能力発揮の場を提供することにより、業績向上と社員の自己実現を両立させ、働きがいのある職場を実現することを目的として人事制度を設け、運用しています。

当社は、人事制度に重要なことは以下の4点であると考えています。

- ① 社員の強み・弱みを把握し、人材開発に結びつけられていること。
- ② 社員の強み・弱み、適性を把握し、適正配置がなされていること。
- ③ 社員のやる気・意欲の向上、組織の活性化につながる仕組みが組み込まれていること。
- ④ 公正な処遇を実現することができる仕組みが組み込まれていること。

以上の4つを実現するため、「目標管理制度」「人事評価制度」「人材開発制度」などを整備し、評価基準や賃金表の公開、評価者研修の定期開催、目標設定面談やフィードバック面談などを実施しています。

### ■ 人材育成への取り組み

建設業は「経験工学」という言葉でよく表現されます。これは経験や体験が人を育てるという考え方に基づいています。仕事を通し成長していくこと(OJT=On the Job Training)は大切なことです。当社はこれを目標管理制度に盛り込み、実践しています。

同時に、経験だけでは得られない知識や能力、ものの見方・考え方などを習得するための集合研修(Off-JT)として、職務遂行能力の成長段階に応じた階層別研修をはじめ、専門知識の習得を目的とした各本部主催の職種別研修などを実施しています。

また、社員には、建設業で働くものとして最低限必要となる公的資格や免許の取得を義務づけています。取得にあたっては、受験料等の取得費用はもとより、資格の重要度等に応じた合格報奨金を支給するなど、全面的なバックアップを行っています。

その他、社員個人が外部主催研修を選び受講できる

選択型研修の実施や、通信教育等の自己啓発に対する支援など、各種の学びの場や機会を提供しています。

### 2009年度に実施した研修

- 階層別研修
  - ・上級マネジメント研修
  - ・課題認識・克服研修
  - ・初級マネジメント研修など7項目
- 職種別研修
  - ・原価管理研修
  - ・地盤改良研修
  - ・コンクリート研修など8項目
- その他
  - ・新任評価者研修
  - ・人権啓発トップ層研修 他

### ■ チャレンジする環境づくり

当社では、社員の自己実現と業績向上の両立に向け、目標設定とそのフォローに力を入れています。目標は、年度当初に上司と面談して、社員本人にとって挑戦的かつ実現可能なものを設定します。その後も、本人の目標達成努力のもと、上司は日常業務や面談の場を通しフォローを行い、目標の達成と社員自身の成長を促します。

期末には、目標に対する達成度や取り組み具合によって評価が決まり、その結果を本人にフィードバックします。結果に対する本人の納得性を高めるとともに、次年度以降の本人の成長課題を明確にするためです。

また、この仕組みが適切に機能しているかどうかをチェックするために、毎年、労働組合と会社とが共同して人事制度の運営状況に関するアンケートやヒアリングを行っています。その結果をもとに労使協議会を開き、社員の生の声が制度運営に反映されるよう努めています。

### ■ 評価者の育成

人事制度の成否のカギは、実際に制度を運用する評価者が握っています。当社では、評価者による運用のばらつきをなくすために、新任評価者を対象とした研修を毎年継続的に行っています。

## 働きやすい職場づくり

### ■ 人権尊重

当社では、人事部内に人権啓発推進室を設置し、一人ひとりの人権を尊重し働きやすい職場づくりを目指しています。経営トップ層から新入社員まで幅広い社員層を対象に研修を実施しています。2009年度は、同和問題・セクシュアルハラスメント・障がい者雇用・メンタルヘルス等をテーマに計46回の研修を実施し、延べ1,476人が参加しました。また、当社が独自に作成したセクハラ防止や人権に関するポスターを各事業所に掲示したり、グループ会社や家族を含めた人権尊重標語の募集等を行ったりしながら、広く人権への関心向上を図っています。

### ■ 多様性の尊重

#### 多様性の尊重

障がい者の雇用・定着の促進や、女性にとっても働きやすい環境づくり、定年退職者の再雇用制度の充実など、社員の多様性を尊重し、生かす取り組みを行っています。

#### 次世代育成支援

仕事と家庭（育児・介護）の両立が可能な働きやすい環境をつくり、社員がその能力を十分に発揮できるようにすることを目的に、「次世代育成支援に向けた第2次行動計画（5カ年）」を策定。2010年4月から運用を開始しました。

#### 育児休業取得者の推移

	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
取得人数	4人	2人	7人	8人	4人

### 時短推進

ワーク・ライフ・バランスの充実に向け、労働時間の短縮を推進する活動や、連続休暇を取得するリフレッシュ休暇などの取り組みも積極的に促進しています。

### 新卒採用

当社では、新卒採用において「人物本位」「学歴不問」「国籍不問」を基本に掲げ、完全オープンエントリー制を取り入れ、学生のみなさんとの対話を重視した活動を展開しています。

### ■ 社員の健康管理

労使で構成される時短推進委員会（兼）労働時間等設定改善委員会を設け、「所定外労働時間の削減」「休日取得の推進」に取り組んでいます。2009年度からは、中央時短推進委員による「時短巡回」を実施。支店や現場の実情を把握し、労使・本支店が一緒になって個々の解決策を検討しています。

また、時間外労働が多い社員に対する医師等による面談の実施やメンタルヘルスケア体制の整備など、社員の心と身体の健康管理にも取り組んでいます。

## 社員とのコミュニケーション

当社は、労働組合との間に、団体交渉とは別に労使協議会を設置しています。これは、相互協調の精神のもと、会社事業の発展と組合員の労働条件の向上を一層促進するために行っているものです。労使協議会では、業務改善、職場環境改善などの課題を取り上げ、本社・支店の事業所ごとに随時開催しています。また、社内イントラネットの活用を促進して、全社的な情報の共有化、組織内コミュニケーションの充実に取り組んでいます。

## VOICE



### 育児休業を取得して

仕事にやりがいを感じていたし、制度があるなら使ってみようと、迷いなく育児休業を選びました。上司も快諾してくれ、一連の手続きも総務部の担当者が丁寧に説明してくださり、何の不安もなく休業することができました。

復職後は、生活のリズムを取り戻すまでかなり大変でしたが、逆に子どもが色々手伝ってくれたり、保育園での出来事を話してくれるなど、今では楽しみも増えています。最近では会社規則も改定され、育児をしながら働く環境が整えられてきています。育児休業取得経験者として、とてもうれしいことです。公私ともに支えてくださった周囲の方々にはとても感謝しています。

土木部門 土木本部 船舶機械部 渡辺 裕子

# 地球環境を守るために

五洋建設は、地球環境を守り、豊かな自然環境を後世に伝えていくため、環境活動指針をもとに全員参加によるマネジメントシステムを運用しています。

## 環境活動指針

- ① 循環型社会の形成、地球温暖化防止等による環境保全に努める。
- ② 環境事故等の発生防止に努める。
- ③ 地域社会とのコミュニケーションを図り、環境に配慮した設計・施工を行うとともに、環境保全・修復の技術開発を行う。
- ④ 当社の事業に関わる人々に環境保全活動の重要性を周知し、意識の向上に努める。

## 環境マネジメントシステムの運用状況

### 外部審査(サーベイランス審査)

実施日：2009年8月3日～6日  
 審査登録機関：(株)マネジメントシステム評価センター  
 審査結果：改善指摘…0件  
 観察事項…7件  
 充実点\*…6件

### 内部審査の実施状況

実施日：2009年4月1日～2010年3月31日  
 審査結果：是正要求……………11件  
 指導観察事項……………223件  
 実施および運用に関する指摘…66件  
 計画に関する指摘……………112件  
 点検に関する指摘……………37件

※審査において観察された優れた事項で、組織の認識を促し、さらなる向上へ意識の高揚が図れる事項

## 環境パトロール

当社は、典型7公害(大気汚染・水質汚濁・土壌汚染・騒音・振動・地盤沈下・悪臭)等の環境事故・苦情の防止と環境法令関係違反ゼロを目的に、各支店の建設現場において着工後、環境パトロールをできるだけ早期に実施しています。

## 環境法令の遵守状況

企業は今、地球温暖化、廃棄物管理など、あらゆる面で環境に配慮した経営が求められており、環境法令遵守状況を把握している必要があります。最近の環境法関連の改正に対しては速やかに対応し、常に環境法令違反の防止に心がけています。

2009年度の環境法令違反はありませんでした。

## 環境教育

建設現場における環境管理全般に関する必要な知識を得るために、環境教育を実施しており、定期的(3年に1回全社員が受講する教育体系)に法規制改正への対応ポイントを確認する機会を設けています。

2009年度からは、社員研修に必ず環境教育も実施することにし、環境事故・環境関連法違反の予防だけでなく、社員全員の地球環境問題に対する意識の向上を目指しています。

### 教育内容

- ① 環境一般教育
- ② 環境法令・約束事項の特定
- ③ 環境法規制・改正の概要
- ④ 廃棄物処理法・建設リサイクル法
- ⑤ 海洋汚染防止法・土壌汚染対策法
- ⑥ 解体工事における環境対策
- ⑦ 環境事故発生時の措置



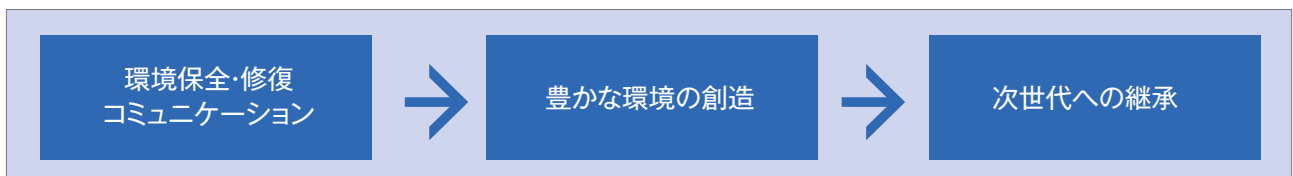
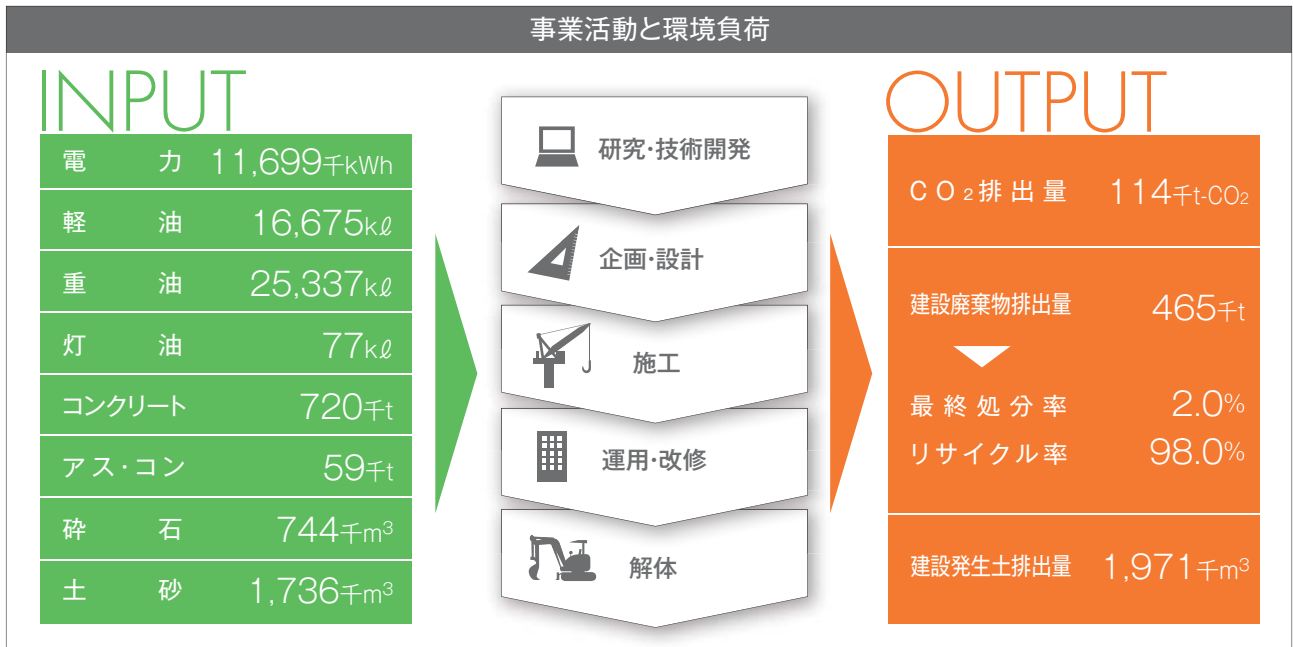
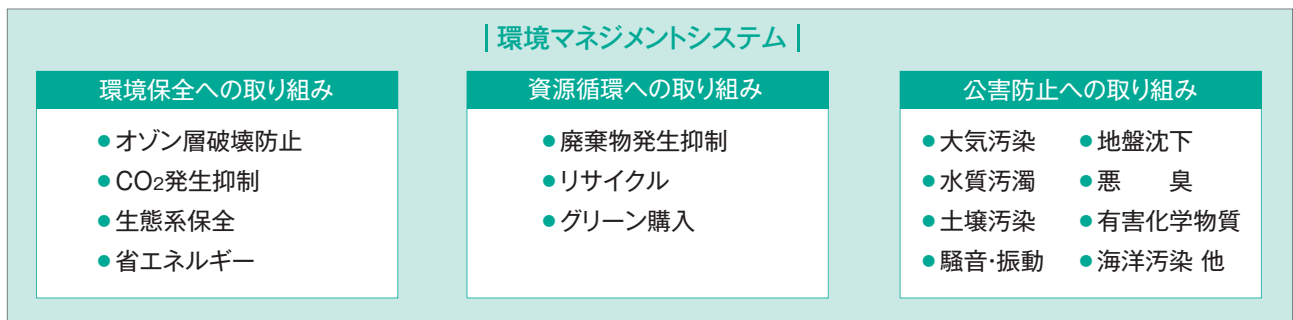
環境教育研修

## 事業活動と環境保全への取り組み

建設業では、研究・技術開発～企画・設計～施工～運用・改修～解体といったライフサイクルにおける各活動段階で地球環境・地域環境とのかかわりを持っています。

当社では、それぞれの活動段階において環境保全への取り組みを行っています。

### 建設工事のライフサイクルと環境保全への取り組み



# 地球環境を守るために

## 2009年度の活動成果と2010年度の環境目標

五洋建設は「環境方針」に基づき、過去の活動実績と年度事業計画をもとに、年度ごとの「環境目的及び目標」を設定し、その達成に向けて環境活動を展開しています。2009年度の環境目的・目標と実績、および2010年度の目標は以下のとおりです。

環境目的	2009年度			2010年度		
	目標	実績	評価	目標	実績	評価
I 環境リスクの低減	—	—	—	1.環境事故防止・予防 ●特定事故(火災・油流出・濁水流出)の発生ゼロ ●環境事故度数率0.3以下 ●環境関連法違反ゼロ	—	—
II 環境社会貢献の促進	—	—	—	1.環境社会貢献への意識の向上 ●環境社会貢献への意識を高める。	—	—
	1.チーム・マイナス6%活動の推進 1人あたりの電気使用量を2002~2004年度実績平均に対し、6%削減する。 全社電気使用量目標:2,760kW/人	2,989kW/人	×	2.チャレンジ25活動の推進 事業所の年間エネルギー使用量(原油換算)1,500kℓ未満の維持を行う。 全社電気使用量目標:2,642kW/人 (2002~2004年度実績平均値に対し、10%削減する)	—	—
III 地球温暖化対策	1.二酸化炭素排出量の削減 施工活動におけるCO <sub>2</sub> 排出量を2010年度までに1990年度比12%削減する。 全社:50.9t-CO <sub>2</sub> /億円以下 土木:78.0t-CO <sub>2</sub> /億円以下 建築:18.0t-CO <sub>2</sub> /億円以下	全社:52.5t-CO <sub>2</sub> /億円 土木:76.1t-CO <sub>2</sub> /億円 建築:14.5t-CO <sub>2</sub> /億円	×	1.二酸化炭素排出量の削減 施工活動におけるCO <sub>2</sub> 排出量を2012年度までに1990年度比13%削減する。 全社:50.0t-CO <sub>2</sub> /億円以下 土木:81.0t-CO <sub>2</sub> /億円以下 建築:16.5t-CO <sub>2</sub> /億円以下	×	○
IV 建設副産物対策	1.ゼロエミッションの推進 ●全工事において運用手順に則った計画時の検討、実施状況の確認を徹底する。 ●廃棄物最終処分率5%以下	2.0%	○	1.ゼロエミッションの推進 施工高あたりの廃棄物最終処分量を前年度比2%減とする。	—	—
	2-1.建設廃棄物の排出量削減 施工高あたりの建設廃棄物の排出量 全社:1,415kg/百万円以下 土木:1,480kg/百万円以下 建築:1,350kg/百万円以下	全社:2,065kg/百万円 土木:2,241kg/百万円 建築:1,723kg/百万円	×	2-1.建設廃棄物の排出量削減 施工高あたりの建設廃棄物の排出量 全社:1,400kg/百万円以下 土木:1,450kg/百万円以下 建築:1,350kg/百万円以下	×	—
	2-2.建設廃棄物のリサイクルの促進	—	—	2-2.建設廃棄物のリサイクルの促進	—	—
	a) アスファルト・コンクリート塊	全社:99%以上	全社:99.9%	○	—	—
	b) コンクリート塊	全社:99%以上	全社:99.9%	○	—	—
	c) 建設発生木材	全社:90%以上 土木:90%以上 建築:90%以上	全社:99.1% 土木:99.6% 建築:99.0%	○ ○ ○	a) 建設発生木材	全社:91%以上 土木:92%以上 建築:90%以上
d) 建設汚泥	全社:91%以上 土木:95%以上 建築:85%以上	全社:88.9% 土木:86.4% 建築:93.4%	×	—	—	
建設廃棄物全体	全社:94%以上 土木:95%以上 建築:93%以上	全社:98.0% 土木:97.3% 建築:98.7%	○ ○ ○	b) 建設汚泥	建築:85%以上	
3.建設発生土の有効利用率の向上 建設発生土の有効利用率 全社:81%以上 土木:80%以上 建築:95%以上	全社:92.2% 土木:90.5% 建築:99.2%	○ ○ ○	3.建設発生土の有効利用率の向上 建設発生土の有効利用率 — 土木:82%以上 —	—	—	
V 環境配慮設計の推進	1-1.環境配慮設計の実施 環境配慮提案の採用項目数を全社で120件以上。	230件	○	1-1.環境配慮設計の実施 環境配慮提案の採用項目数を全社で120件以上。	—	—
	1-2.環境配慮設計の実施 建築物環境性能評価の実施 ●CASBEE適用物件で実施率を80%以上とする。 ●CASBEEによる環境性能評価を行う案件に対し、総合評価B+以上となるものを50%以上とする。	100% 100%	○	1-2.環境配慮設計の実施 建築物環境性能評価の実施 ●CASBEE適用物件で実施率を100%とする。 ●CASBEEによる環境性能評価を行う案件に対し、総合評価B+以上となるものを70%以上とする。	—	—

○:達成 △:概ね達成 ×:未達成

## 環境保全コスト

### 2009年度環境保全コスト

当社では環境保全活動の効率的な実施や環境経営へ生かしていくために、また取り組み状況の正確な情報開示の有効手段として2000年度より環境会計を導入しています。

環境会計は、環境保全コスト、環境保全効果、環境保全に伴う経済効果の3要素から構成されていますが、ここでは環境保全コストを公開します。

#### 2009年度環境保全コスト(百万円)

項目	主な活動内容	実績
1.事業エリア内コスト	作業所における環境負荷低減コスト(小計)	4,343
公害防止コスト	大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など公害防止に要したコスト	3,076
地球環境保全コスト	温室効果ガス削減活動、生態系維持活動などに要したコスト	42
資源循環コスト	建設副産物のリサイクル、廃棄物の最終処分などに要したコスト	1,225
2.上・下流コスト	グリーン購入の差額及び環境配慮検討などに要したコスト	191
3.管理活動コスト	事業活動に伴い発生する環境負荷の間接的な抑制に要したコスト	826
4.研究開発コスト	環境保全関連の研究開発に要したコスト	533
5.社会活動コスト	社会活動における環境保全に要したコスト ※作業所における地域住民への環境保全活動支援は除く	28
6.環境損傷コスト	事業活動が環境に与えた損傷に関して修復などに要したコスト	230
合 計		6,151

※昨年度までの集計方法を若干修正したため経年変化は表示しておりません。

### 基本事項と集計方法

環境保全コストについては、「建設業における環境会計ガイドライン2002年版」(建設3団体)、「環境会計ガイドライン2005年版」(環境省)を参考とした当社の算出基準にしたがって算出しています。

- 事業エリア内コストは作業所にて発生したコストのみで算出。
- 上・下流コスト、研究開発コスト、社会活動コストは本支店などの間接部門で発生したコストのみで算出。
- 管理活動コスト、環境損傷コストは作業所および間接部門の合算で算出。
- 作業所のコストは海外工事を除くサンプル現場の数値と期中完工高をもとに全体を推計。
- 間接部門のコストは海外を除く本支店全部署(営業所を含む)全数を集計。
- 作業所のサンプル数は土木工事65件、建築工事34件の計99件とした。

# 環境に配慮した技術

五洋建設では、社会のニーズに応えるため、環境技術の開発や、環境負荷を低減する工法の提案を積極的に行っています。

## 環境配慮設計

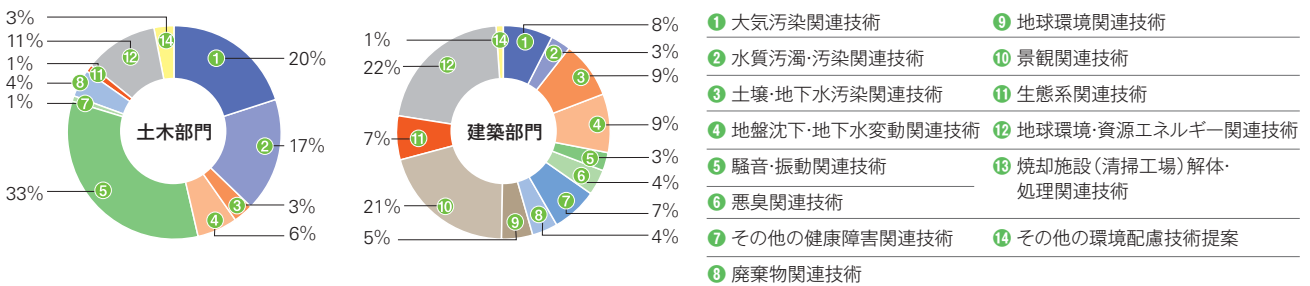
設計部門では、設計業務がお客様を含めた社会のニーズに適合するか、最小限の費用で提供できるかの検討を行うことに加え、環境に配慮した設計とすることができないか、という視点での検討を行っています。

お客様には、自社で開発した技術を中心に環境負荷を低減する工法を積極的に提案しており、取り組んでいる内容は下記に示すとおりです。

2009年度、建築部門は22物件の設計において、399項目の環境配慮設計提案を行いました。提案内容を分野別に見てみると「地球環境・資源エネルギー関連技術」「景観関連技術」で全体のほぼ4割以上を占めています。

土木部門では75物件の設計において、230項目の環境配慮提案を行いました。

### 環境配慮設計提案件数の項目別割合



## 環境に配慮した設計・施工の取り組み

大阪府堺市のシャープ液晶パネル工場を中心とする「グリーンフロント 堺」の中の1棟として、設計施工で建設された大日本印刷株式会社様のカラーフィルター工場です。

環境先進を標榜する「グリーンフロント 堺」の名にふさわしい環境創造を目指し、建物では壁面位置や建築ファサードに統一性を持たせ、敷地外周部の緑化やセンター通路の並木空間の創造、屋根や外壁面の太陽光パネルの積極的活用、太陽電池付LCD照明の外灯の設置など、多くの基本ガイドラインが決められています。建物単体としても、CO<sub>2</sub>削減のための取り組みとして、基本照明はLED蛍光器具を採用し、事務所部分の窓ガラスに熱線反射ガラスを使用し、屋根と外壁には太陽光パネルの設置が可能なように計画しています。

また、快適な執務空間の創造やリサイクル品の採用なども行い、その結果、大阪府建築物環境配慮評価システム(CASBEE)ではS評価を取得しました。



「グリーンフロント 堺」パース



外観



## 太陽熱発電システムへの協力

太陽熱発電システムの実証化プラントが、アラブ首長国連邦の首都アブダビに完成しました。これは、地球温暖化に大きく影響するといわれている温室効果ガス(CO<sub>2</sub>)の排出削減を可能とする再生可能エネルギーとして期待されるものです。アブダビ未来エネルギー公社様(Abu Dhabi Future Energy Company、通称MASDAR)と日本のコスモ石油株式会社様が共同事業主になり、三井造船株式会社様がEPC\*部門を請負い、当社が施工協力を行っています。

この未来的でユニークな外観をしたプラントは、周囲に配置した多数の1次反射鏡(自動追尾装置付き、ヘリオスタット)が太陽光を反射させて中央の大きな2次反射鏡に光を集めます。2次反射鏡はその真下にある太陽炉に再反射させて、高温を使って蒸気タービンを回して発

電させます。

今後はこの太陽熱発電実証プラントを使って、各種の性能評価試験を実施し、将来の大型プラント建設の可能性が検討されます。

※EPC(Engineering, Procurement & Construction)  
設計から施工まで一括で請負う形態



アブダビに完成した太陽熱発電システム

## 生物多様性への取り組み

近年、生物多様性の重要性が一般に認知され、浸透してきています。特に2010年10月に「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」がわが国で開催され、またCO<sub>2</sub>削減が現実的に議論される中で、自然環境の保全・再生についての注目度がますます高まっています。

当社は海の自然再生だけでなく、陸域の緑化や自然再生にも取り組んでおり、ピオトープの検討・施工実績も増えています。

2010年5月には、名古屋で行われたURBIO2010(国際会議「都市における生物多様性とデザイン」)に参加し、『海辺の緑地マニュアル』に基づく産官学の技術

者による自然再生への提案」という表題で発表しました。(明治大学輿水教授(海辺の緑地マニュアル検討委員会委員長)らと連名)



海辺の埋立地へのヨシ原植栽

### VOICE



#### 学生時代の専攻を生かして、干潟・海浜の海辺植生などの提案をしています

私は学生時代、緑地環境保全(造園・緑化)を専攻し、主として日本庭園のコケ植物を扱っていました。入社後は海草の移植や藻礁ブロックの検討など、海の自然再生に加えて、クウェート国の人工干潟周辺の海辺植生の移植や、丘陵地での施工における植生対策など、多くの自然再生に携わってきました。近年、海域と陸域の間の移行帯(エコトーン)の重要性がますます認識され、海辺の緑地が着目されてきており、学生時代の専攻を生かせる業務が増えてきました。今後、干潟、海浜の海辺植生や、マングローブの創造・保全・再生を提案していきたいです。

土木部門 土木本部 環境事業部 浜谷 信介

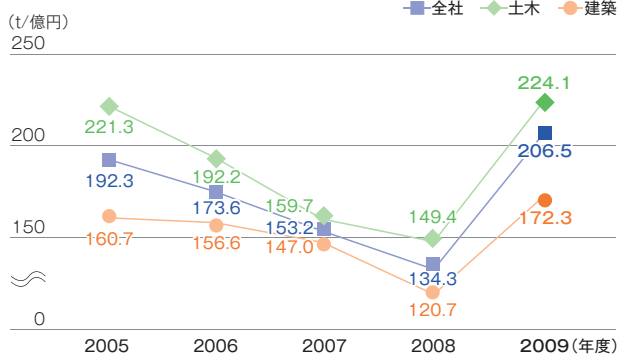
# 廃棄物・資源の適正管理

五洋建設では、発生抑制を基本とした3R(リデュース・リユース・リサイクル)推進活動を全員参加で実施しています。さらに最終処分量の減量化を目指して、2006年度よりモデル工事を選びゼロエミッション活動を推進しており、2009年度からは全社規模で展開しています。2009年度も当社国内の建設工事から排出された建設廃棄物について全量調査・集計を行いました。

## 建設廃棄物排出量

2009年度の建設廃棄物総排出量は約46.5万tとなり、2008年度より約12.8万tの増加となりました。施工高1億円あたりの排出量原単位も206.5t/億円となっており、2008年度より72.2t/億円増加しました。品目別の排出量については建設汚泥が全排出量の52%を占めていますが、これは、大規模シールド工事現場によるものです。

建設廃棄物排出原単位推移



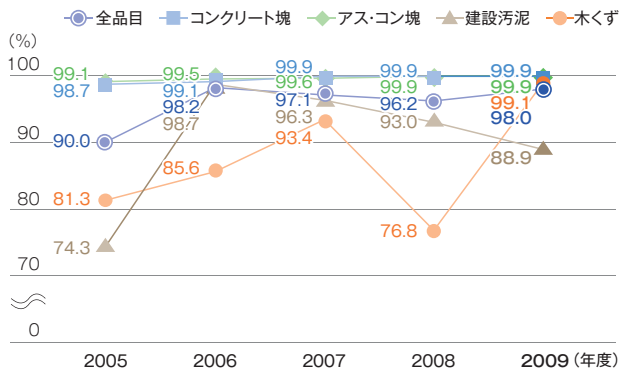
2009年度 建設廃棄物総排出量集計表(千t)

部署	品目	コンクリート塊	アスコン塊	建設汚泥	建設発生木材	混合廃棄物	その他	排出量計
土木		71.6	13.7	223.6	5.8	1.5	17.6	333.8
建築		83.6	8.4	17.3	4.9	5.6	11.8	131.6
全社		155.2	22.1	240.9	10.7	7.1	29.4	465.4

## リサイクル率推移

全品目のリサイクル率は98.0%と2008年度に比べ1.8ポイント改善し、依然高いリサイクル率を確保しています。建設汚泥は2008年度比4.1ポイント減の88.9%と減少しましたが、昨年度目標を達成できなかった木くずを含め、コンクリート塊、アス・コン塊、については、建設リサイクル推進計画(国土交通省)の目標値を上回っており、高いリサイクル率を維持しています。今後は建設汚泥等のリサイクル率が2008年度並みに90%を上回るように重点的な取り組みを実施していきます。

リサイクル率推移



## 建設発生土有効利用実績

2009年度は全建設土砂利用量1,736千m<sup>3</sup>に対し、建設発生土利用量は1,600千m<sup>3</sup>で、92.2%の有効利用率となり、2008年度に比べ12.3ポイント上昇しました。今後も建設発生土有効利用率向上に向けた積極的な活動を展開していきます。

2009年度 有効利用実績

	土木	建築	全社
建設発生土利用量(千m <sup>3</sup> )	1,272	328	1,600
土砂利用量(購入材)(千m <sup>3</sup> )	133	3	136
全土砂利用量(千m <sup>3</sup> )	1,405	331	1,736
建設発生土利用率(%)	90.5	99.2	92.2

## ゼロエミッション推進活動

### ゼロエミッション推進基本方針

3R活動を推進し、  
建設廃棄物の最終処分量を“ゼロ”に近づける。

### 重点実施事項

- 建設廃棄物の発生抑制
- 地域性に対応した分別収集・再資源化の徹底
- 教育・啓蒙活動(意識の共有化)

2006年度よりゼロエミッションのモデル工事を決めて推進してきた3年間の実績を踏まえて、2009年度からは最終処分率5.0%以下を目標にゼロエミッション活動を全社に展開しています。2009年度の最終処分率は土木部門2.7%、建築部門1.3%、全社で2.0%となり、初年度の目標を達成することができました。2010年度もさらにさまざまな工夫を凝らし、ゴミゼロに向けて組織的に取り組んでいきます。

## TOPICS

### 山口きらら博記念公園水泳プール新築工事の環境対策

山口県山口市にある当工事現場は、干潟で国内有数の規模を誇る「榎野川干潟」に接し、渡り鳥のクロスロードであり、アマモ場、カブトガニ等の生息地でもあります。

当社は、建設工事全体の統括安全衛生管理義務者として自主管理組織を発足させ、環境に影響する活動についてのルールを策定し、その運用と監視を行っています。例えば、ゴミの分別を徹底し、3R(リデュース・リユース・リサイクル)活動を実施したり、現場内に汚濁処理施設を設置して、現場から排出される雨水・汚水を浄化し、アルカリ性の高い水を海に排出しないようにするなど、積極的に環境保全に取り組んでいます。

また、熱中症対策として作業員休憩所や工事現場内の静養所に冷暖房設備を設置するなど、快適職場の推進も積極的に進めており、2009年3月、山口県労働局長より、認定証が授与されました。



ゴミの分別状況



現場内に設置された汚濁処理施設



山口きらら博記念公園水泳プールの完成イメージ

# 環境保全の取り組み

五洋建設では、環境保全の取り組みとして、地球温暖化防止への取り組みをはじめ、オフィス業務活動を通じた環境負荷低減活動や、化学物質の適正な管理を推進しています。

## 地球温暖化防止への取り組み

### ■ 二酸化炭素排出量削減の取り組み

当社は、「2012年度までに1990年度に対し、13%二酸化炭素排出量を削減する」と「建設業の環境自主行動計画第4版(改訂版)」(建設3団体)に対応して目標設定を行っています。2004年度より二酸化炭素排出量の調査・集計を行うと同時に、排出削減に向けた取り組みを推進しています。算出は計118工事現場(土木工事74、建築工事44)のサンプリング調査に基づき、年度施工高で全社ベースに換算した数値を使用しています。

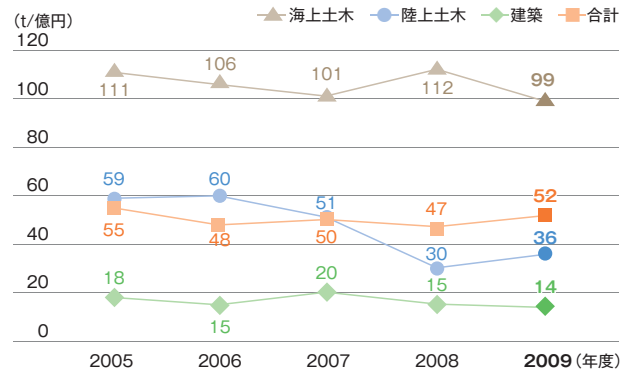
2009年度の総排出量は、114.4千tで前年度より12.8千t減少しました。施工高1億円あたりの排出原単位は約5.2t/億円増加し、約52.5t/億円(1990年度比削減率7.9%)となりました。

工事現場においては、二酸化炭素発生量の少ない工法への変更、適切な規模の建設機械選定等、計画・実施段階での検討・対応を行っています。

具体的削減事例としては、航路浚渫工事では、水平掘削制御装置等の機器を搭載したグラブ浚渫船を技術

提案し、余掘量を少なくすることにより土運船の運搬回数を減らし、二酸化炭素排出量を削減しました。伐採・伐根材等を現場にてチップ化することにより、縮減を図り、運搬回数を減らしました。また、運搬車両に省エネ運転監視システムを導入すること等により、車両の動きを管理して二酸化炭素排出量を削減しました。

### ■ CO<sub>2</sub>排出原単位

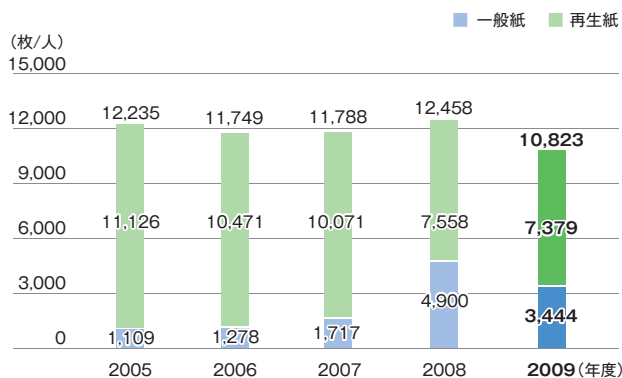


## オフィスにおける省資源・省エネルギーの促進

### ■ コピー紙使用量の削減

両面コピー・ワンシートコピー・裏面利用、電子媒体の活用、再生紙の使用・購入量の管理による削減活動を徹底しています。2009年度は前年度に比べ約13%減となりました。

### ■ 一人あたりのコピー紙使用量(全体集計)



### ■ グリーン調達

オフィス活動の一環として、事務用品のグリーン製品購入比率を管理しています。今後もグリーン製品の購入に積極的に取り組んでいきます。

### ■ グリーン製品購入比率(%)

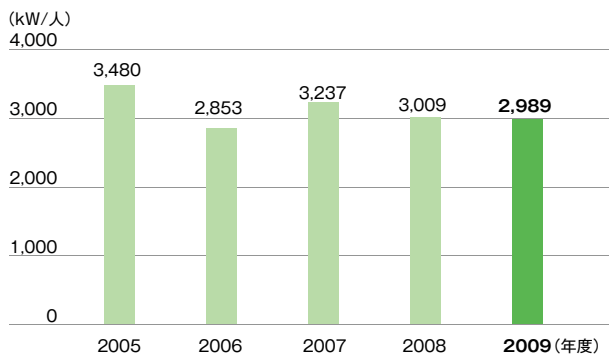
	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
紙類	99	98	99	94	90
文具類	91	94	93	88	89
機器類	87	100	98	92	91
OA機器	98	78	90	85	78
家電製品	97	100	4	43	0
照明	9	63	95	86	71
平均	93	96	95	88	88

### ■ 電力使用量の削減

当社は「チャレンジ25キャンペーン」にチャレンジャー登録をしました。地球温暖化対策を推進するため、COOL BIZに賛同している旨をエントランスに掲示し、お客様にご理解をいただいています。昼休みの消灯、退社時の部分消灯、空調機の温度設定などの全社通達、また休日のエレベータの稼働台数の見直しなどにより電力使用量の削減を図っています。



#### ■ 一人あたりの電力使用量(全体集計)



### ■ ゴみの分別収集

オフィス各フロアーにゴミの分別ボックスを設置し、分別収集の呼びかけを行っています。分別状況のチェックは毎日行い、結果は極めて良好です。また、プルトップ・ペットボトルのキャップ・割り箸の回収も行っています。

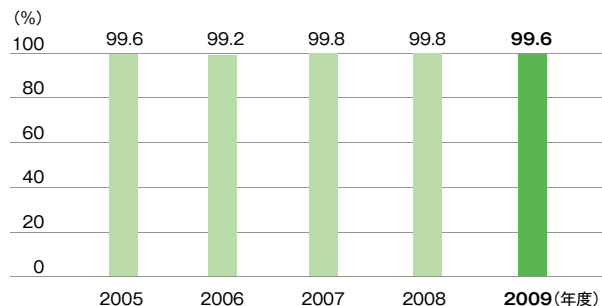


エコキャップ運動を推進



割り箸リサイクル

#### ■ 一般廃棄物分別状況(全社平均)



## 有害・化学物質の管理

### ■ ダイオキシン対策工事のパイオニア

廃棄物焼却施設はダイオキシン類、重金属、他の有害物質に汚染されており、解体作業においては、有害物質の周辺環境への漏出防止措置、作業員へのばく露防止対策を確実に実施し、有害物質を含む廃棄物を適正に処理・処分することが義務づけられています。また、廃棄物焼却施設では施設運転時の排気ガスの酸性成分ダイオキシン漏出防止のため焼却炉全体を密閉養生により煙突等の構造物の劣化が進行している場合が多く、作業員の安全を確保することも事業者の義務となります。施設

の更新需要に加え、稼働を停止したまま放置されている焼却施設は全国に数百施設あり、有害物質の漏出拡散リスク回避の観点から速やかな解体事業の執行が社会的に要請されています。

当社は、早くからダイオキシンの有害性に着目し、専門チームを編成して焼却施設の解体技術開発に取り組んでおり、2000年に、全国で初めてダイオキシン類ばく露防止対策を伴う焼却施設の解体工事を実施して以来、約60件にのぼる焼却施設を解体し、経験を蓄積してきています。

# 信頼される企業を目指して

コーポレートガバナンスやリスクマネジメントなどの体制を強化し、サステナブル企業を目指します。

## コーポレートガバナンス

### ■ 基本的な考え方

会社の持続的な成長・発展のため、コーポレートガバナンスの充実を重要な経営課題と位置づけています。具体的には、企業経営に関する監査・監督機能の充実、コンプライアンスの徹底、ディスクロージャーの充実などを最重要施策として実施しています。

### ■ 迅速で的確な意思決定を行うためのコーポレートガバナンスの充実

#### 内部統制基本方針の策定および実効ある内部統制システムの整備

取締役会において内部統制に関する基本方針を策定のうえ、社内規制等の体系化を図るとともに、リスク管理体制の見直し、強化など、内部統制システムの整備を進めています。

#### 執行役員制度および業績評価制度の導入

将来の売上高の指標となる建設事業の受注高、現状の収益性の指標となる営業利益、企業価値の指標となる当社株価等を客観的評価項目とするとともに、定性的な個人の業績評価を加味して決定しています。

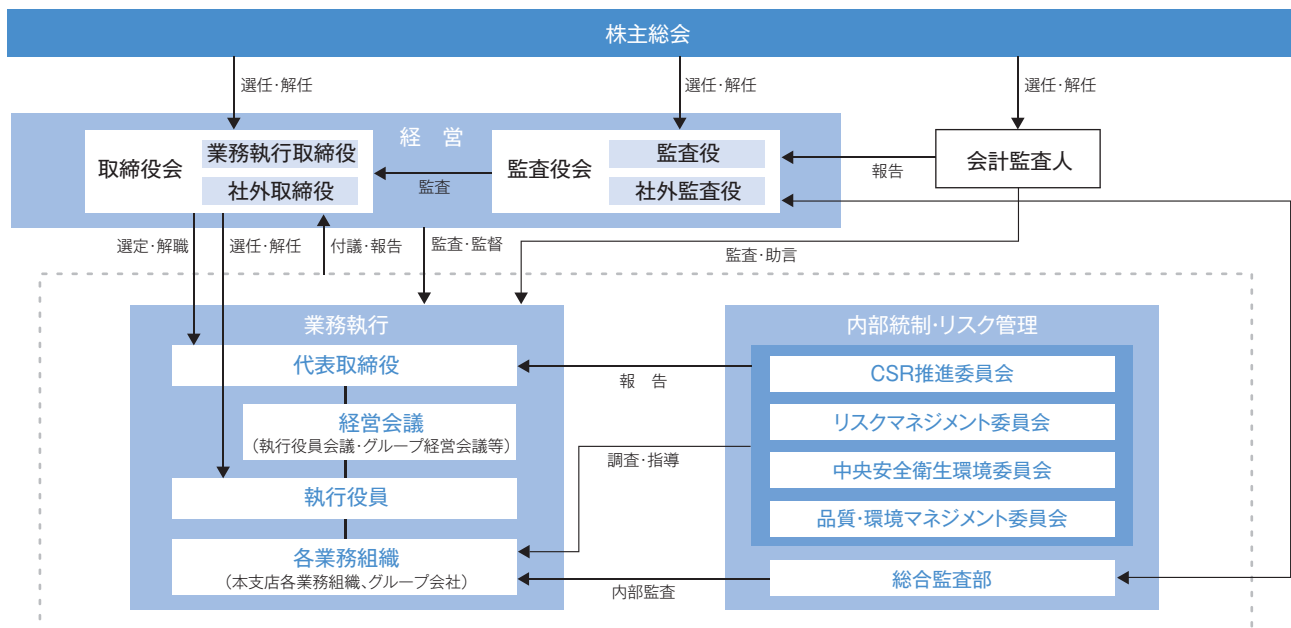
### 監査役監査、内部監査および会計監査の充実

監査役については、すべての監査役が取締役に常時出席している他、執行役員会議をはじめとした社内の重要会議にも積極的に参加しており、取締役の職務執行状況を十分に監視する体制を整えています。また内部監査については、社長直轄の総合監査部が監査役会と連携をとり、当社各部門およびグループ会社の業務執行状況を監査しています。会計監査については、当社は会計監査人として新日本有限責任監査法人と監査契約を締結しています。監査役会、総合監査部、会計監査人は、定期的に監査計画、監査結果の情報交換等により連携し、監査の実効性を高めています。

### 取締役・監査役の状況

2010年6月29日現在、取締役8名うち社外取締役1名、監査役5名うち社外監査役3名となっています。なお、社外取締役および社外監査役は客観的な独立性の確保のみならず、経営、監査における実効性や専門性の確保においても考慮し選定しています。

## ■ コーポレートガバナンス体制



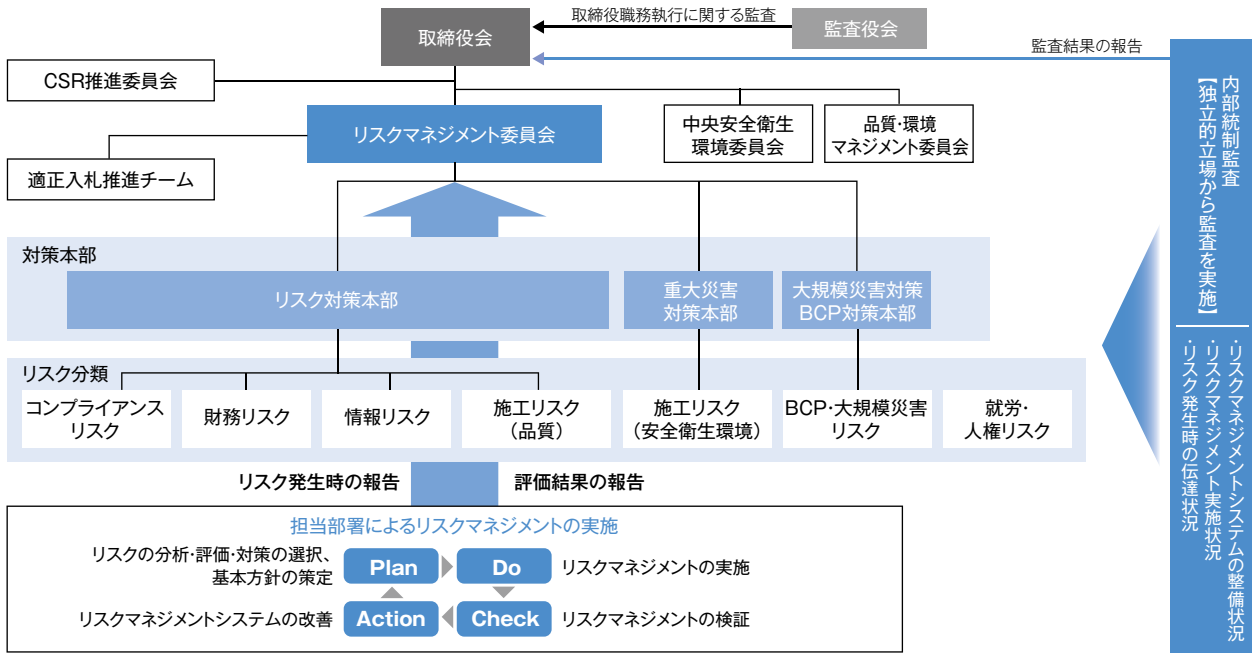
## リスクマネジメント体制

当社のリスクマネジメントは、リスクを把握・特定することから始まり、把握・特定したリスクを発生頻度と影響度の観点から評価した後、リスクの種類に応じて対策を講じます。また、仮にリスクが実際に発生した際には、リスクによる被害を最小限に抑えるという一連のプロセスがあります。

2008年4月にリスク発生を包括的に管理することを

目的として、代表取締役を委員長とするリスクマネジメント委員会を設置し、新たな体制でスタートしました。企業が内包するコンプライアンスリスクをはじめ、情報リスク、BCP・大規模災害リスクなど、リスクマネジメント委員会が中心となって取り組み、リスク分類に応じてリスク担当部署を定め、リスクマネジメントを推進しています。

### リスクマネジメント体制



信頼される企業を目指して

## コンプライアンスの推進

企業が社会的責任を果たすためには、その根幹であるコンプライアンスの重要性を、役職員が十分に理解し、徹底しなければなりません。談合行為をはじめとする法令違反事件の再発防止策を着実に実行することにより、コンプライアンス経営の徹底に努めています。

### ■コンプライアンス基本方針

五洋建設グループの全役職員は、事業活動においては法令を遵守し、社会規範・倫理を尊重することはもとより、常に誠実な姿勢で行動します。特に工事入札におい

ては、独占禁止法その他関係法令を遵守し、公正かつ自由な競争を実践します。

### ■適正入札のための行動指針を発行

2009年6月に、これまでの「独占禁止法遵守マニュアル」を全面的に見直して改訂しました。違法行為等に対する当社グループの姿勢を明確にしたいうえで、グループ内全役職員に配布し、その周知徹底を図っています。



# 信頼される企業を目指して

## ■コンプライアンス教育

グループコンプライアンスの徹底を図るために、グループ会社の役職員も含めた研修を定期的を実施しています。研修は、役職員の属性(所属企業、職種、年齢層等)に応じて教育の内容や頻度に差異を設けるなど実効性を追求します。2009年度はコンプライアンス研修を約80回開催し、約2,500人の役職員が参加しました。

## ■反社会的勢力排除の徹底

コンプライアンスおよび企業防衛の観点からの反社会的勢力との関係を遮断することの社会的責任、重要性を十分認識し、暴力団など反社会的勢力との関係遮断に向けた態勢を整備しています。2008年4月に反社会的勢力排除の基本方針を制定しました。同年11月には「購

買基本契約約款」に、2010年1月には、「工事下請約款」にそれぞれ反社会的勢力の排除条項を追加して、その徹底を図っています。

## ■内部通報制度の機能拡大

2003年度より、コンプライアンスの徹底をより一層推進する取り組みの一環として、イントラネット上に「コンプライアンス相談窓口」を設置しています。この相談窓口は、従業員が法令や倫理・会社規則に抵触する恐れのある行動を発見、またはコンプライアンスに関する事柄に疑問を感じた時に、社内の窓口の他、外部窓口(弁護士)へ通報できる制度であり、匿名による相談も可能となっています。

## 事業継続計画(BCP)の推進

### ■新型インフルエンザ対策

世界各国で新型インフルエンザの感染が相次ぎ、2009年6月にはWTOが世界的流行病(パンデミック)であると宣言し、警戒レベルをフェーズ6に引き上げました。当社は抗体マスクや消毒アルコールなどの備蓄および配布を行い、手洗いやうがいの励行をするとともに、随時、新型インフルエンザに関する最新情報を社員に提供するなどの対策を行いました。

### ■大規模地震発生時の訓練

自然災害や大火災など、企業が緊急事態に遭遇した場合を想定し、事業資産の損害を事前に回避し、被害を最小限にするため、危機管理活動を進めています。当社では特に首都直下型地震対策として、事業継続計画

(BCP:Business Continuity Plan)を策定しており、発生時に発動するよう、整備をしています。毎年9月には大規模なBCP訓練を実施し、事業継続計画の改善を継続的に行っています。

### ■具体的なBCP活動内容

- ①安否確認システムによる従業員の安全確認と事務所の被災状況確認
- ②那須技術研究所による情報資源のバックアップ対応
- ③本社ビルが被災した場合の代替拠点への移行
- ④BCP対策本部および任務遂行チームによる事業継続計画の実行
  - お客様の支援要請に対応
  - 近隣の救護活動および支援要請に対応
  - 他支店へ救援物資、応援人員要請
- ⑤事業継続計画に基づいた指揮命令、権限委譲、重要業務代替手段の実施

## VOICE



### 日頃の積み重ねや震災に対する意識が大切

「頭の中で知っているだけ」と「実際に経験していること」には、大きな違いがあると思います。今回のBCP徒歩帰宅訓練に参加したことで、自宅までの帰宅ルートを自分の足で歩き、目で確認することができました。

自分の足で家まで帰れるということは、震災時に感じる不安を少し取り除けるのではないかと思います。日頃の訓練の積み重ねや、震災に対する意識を持つことが大切だと実感した訓練でした。

経営管理本部 事務部 郷 真理



## 安全衛生・品質・環境マネジメント

五洋建設では、ISO9001およびISO14001によるマネジメントシステムを運用しています。それぞれの認証取得は、2002年3月までに完了しました。続いて、事業活動をより効率的・効果的に実施するため、本社に中枢機能を配した「全社システム」として認証を再取得し、全員参加によるマネジメントシステムを展開しています。なお、全社システムを当社CSR活動の重要な要素としてとらえ、安全衛生・品質・環境方針を定め、運用しています。

### 安全衛生・品質・環境方針

- 五洋建設株式会社は、安全衛生、品質及び環境保全に十分に配慮した建設活動を推進するとともに、関係法令及びその他の要求事項を順守し、全てのステークホルダーに信頼される魅力ある企業として持続的に発展する企業を目指している。
- 当社の経営理念の下、人間尊重を基本姿勢として、安全最優先の施工により、すべての災害防止に全力を傾注し、顧客が満足感を持てる製品及びサービスを提供するとともに、地球環境に配慮したものづくりを通じて、社会的信用を確立する。
- 労働安全衛生、品質及び環境マネジメントシステムを全員参加で運用するとともに、継続的にシステムを改善して効率的で効果的な業務を推進する。

この方針に基づき、次の指針を展開する。

安全衛生活動指針 ▶ P13 品質活動指針 ▶ P9 環境活動指針 ▶ P19

## 情報セキュリティマネジメント

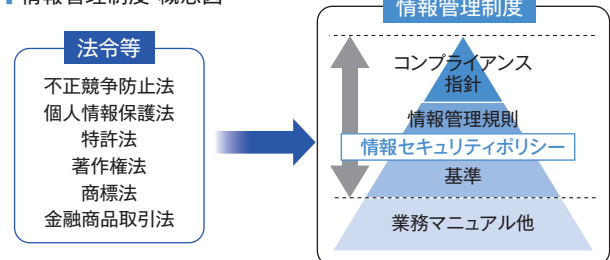
近年、個人情報をはじめとする機密情報の漏えいなど情報関連の事件・事故が後を絶ちません。事件・事故が発生した場合、企業が被る損害は計り知れず、社会的責任も重大であるため、企業の情報管理が問われています。また現在のように情報化した社会では、情報システム環境（電子入札、電子納品、電子商取引など）に基づいた取り決め・対応が必要です。

当社は情報管理制度を構築し、主な取り組みにより制度の充実・改善を図っています。また共通グループウェアを活用し、情報システム機器への物理的対策だけでなくe-ラーニングによる全役職員への情報教育（年2回）および職種別研修などで情報管理技術の向上に努めています。

### 主な取り組み経過

2003.11	情報システムの取り扱いに関する「情報管理基準」発行
2004.7	「情報管理制度」導入
2005.4	「個人情報保護法」の完全施行 事業継続計画（BCP）活動開始
2005.9	全取引業者との「秘密保持契約」の締結
2006.7	情報セキュリティに関する内部監査の実施 関連会社6社についてセキュリティポリシー制定

### 情報管理制度 概念図



## 知的財産の管理

当社では知的財産を適切に管理することで、事業を展開していくうえで不可欠な活動と位置づけています。事業展開に応じた権利取得を積極的に推進するとともに、他者からの権利侵害についても適宜調査し、関連法規に基づいて対応しています。また技術開発においては、先行技術など他者の権利に抵触することのないよう調査す

るなど、第三者の知財権を尊重するための組織体制やルール整備を行っています。

※2009年度特許取得状況 特許出願件数43件 特許登録件数48件特許公開件数31件。  
地盤改良工法、海上工事安全管理システム、複合構造梁構法など。  
2010年3月31日現在の特許保有数は478件、実用新案2件の合計480件です。



### 香港職業訓練學校 (香港)

当学校は毎年5万人の学生を社会に送り出している由緒ある職業訓練学校です。  
校舎は、フランスの著名な設計事務所「Coldefy & Associates Architectes Urbanistes」により、4つの塔(最高高さ56m、11階建て)で構成された斬新なデザインとなっています。

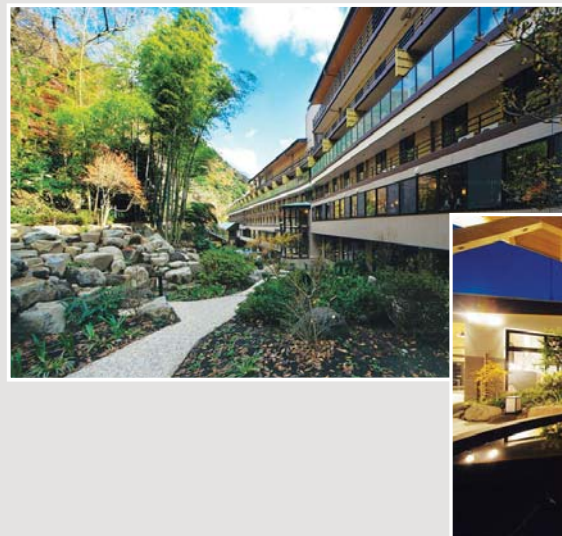
# 2009年度 主な完成工事の紹介

五洋建設は、安全、環境への配慮と技術に裏打ちされた確かな品質の提供を通じて、ステークホルダーの皆様にとって魅力ある企業を目指します。



### アジア特殊製鋼・寿工業 北九州工場 (福岡県)

日本国内とアジア地域への輸送アクセスの玄関口である福岡県北九州港響灘地区に、敷地面積約14万㎡(東京ドーム約3個分)の当工場が完成しました。当社は建物とプラント基礎の設計施工だけでなく、原材料の仕入れや製品の輸送に便利な専用の岸壁も施工しました。



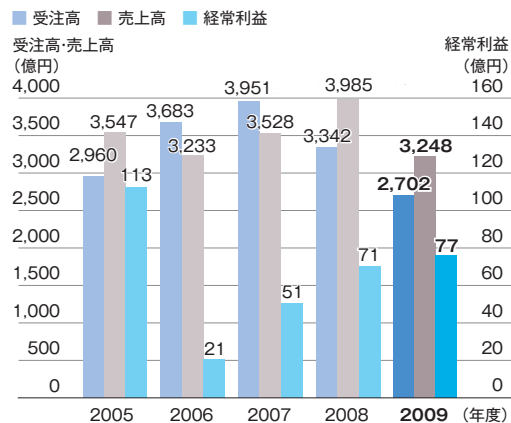
### 会社概要

社 名：五洋建設株式会社  
PENTA-OCEAN CONSTRUCTION CO., LTD.  
創 業：1896年(明治29年) 4月  
設 立：1950年4月28日  
代 表 者：村重 芳雄  
資 本 金：28,070百万円(2010年3月31日現在)  
従業員数：2,674名(2010年3月31日現在)  
主な事業：建設工事の設計および請負、  
その他関連する一切の事業

五洋建設のマスコットキャラクター「Mr.Penta」です。  
長い胴と短い足が愛らしいバセットハウンドがモデルです。  
名前は五洋建設の英語「Penta-Ocean」から命名されました。



### 受注高・売上高・経常利益(連結)





## 衣浦港廃棄物最終処分場整備 (愛知県)

愛知県衣浦港で進められている廃棄物最終処分場建設事業のうち、当社JVは護岸工事を担当しました。高層ビル1棟ほどの巨大なハイブリッドケーソン(長さ90m、幅15m、高さ16.5~17.5m、重量約6,000t)を8函、製作・据え付ける工事で、このような規模・数量の工事は国内でも例がありません。

## アイオンオーチャード・オーチャードレジデンス (シンガポール)

シンガポール随一の高級ショッピングエリア、オーチャード通りに、超高層ビルが誕生しました。

建物は、最高高さが218mとなる地上56階建ての高級コンドミニアムと、地下4階地上9階建てのショッピングモールからなり、オーチャード通りで最も人通りの多いMRTオーチャード駅に直結しています。



## 箱根湯本温泉「天成園」 (神奈川県)

箱根湯本温泉の老舗旅館が、生まれ変わりました。文人墨客が愛した昔ながらの美しい景色と伝統を受け継いだ名湯を残しつつ、箱根湯本温泉地区では初の23時間営業の日帰り利用温泉を導入するなど、新しいコンセプトを取り入れた新時代の温泉宿泊施設です。



### 主な事業所

本 社	〒112-8576	東京都文京区後楽2-2-8	TEL.03-3816-7111	FAX.03-3816-7158
技術研究所	〒329-2746	栃木県那須塩原市四区町1534-1	TEL.0287-39-2100	FAX.0287-39-2131
札幌支店	〒060-0005	北海道札幌市中央区北5条西2-5 JRタワーオフィスプラザさっぽろ10F	TEL.011-281-5411	FAX.011-281-5418
東北支店	〒980-8605	宮城県仙台市青葉区二日町16-20 二日町ホームプラザビル2F	TEL.022-221-0932	FAX.022-225-3859
北陸支店	〒950-8501	新潟県新潟市中央区東大通1-2-25 北越第一ビルディング5F	TEL.025-246-1381	FAX.025-243-7074
東京建築支店	〒112-8576	東京都文京区後楽2-2-8	TEL.03-3817-7600	FAX.03-3817-7661
東京土木支店	〒112-8576	東京都文京区後楽2-2-8	TEL.03-3817-8890	FAX.03-3817-8642
名古屋支店	〒460-8614	愛知県名古屋市中区錦3-2-1 信愛ビル4F	TEL.052-961-6234	FAX.052-971-4328
大阪支店	〒530-0012	大阪府大阪市北区芝田2-7-18 オーエックス梅田ビル新館4F	TEL.06-6486-2100	FAX.06-6486-2117
中国支店	〒730-8542	広島県広島市中区上八丁堀4-1 アーバンビューグランドタワー7F	TEL.082-511-7900	FAX.082-511-7915
四国支店	〒790-0011	愛媛県松山市千舟町4-4-3 松山MCLビル	TEL.089-935-5755	FAX.089-935-6017
九州支店	〒812-8614	福岡県福岡市博多区博多駅南1-3-11 博多南ビル3F	TEL.092-475-5000	FAX.092-475-5011
海外事業所	シンガポール営業所 / 香港営業所 / ベトナム営業所 / インドネシア営業所 / マレーシア営業所 / エジプト営業所			



<http://www.penta-ocean.co.jp>

お問い合わせ先 CSR推進室  
TEL.03-3817-7550 FAX.03-3814-2864

詳しい情報はここから

<http://www.penta-ocean.co.jp>



本報告書で使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。  
また、適切に管理された森林から生まれた「FSC認証紙」を使用しています。  
インクは「100%植物油のインク」を使用し、印刷は印刷工程で有害廃液を出さない「水なし印刷」で行っています。